

F★★★★

ホルムアルデヒド放散等級

ALES DYNAMIC TOP

MILD 2液

弱溶剤形2液高耐候性ハルスハイリッチシリコン樹脂塗料

アレスダイナミックTOPマイルド 2液

2
COMPONENTS

 KANSAI
PAINT

フッ素に迫る耐久性! 外壁から鉄部まで長期に保護

アレスダイナミックTOPマイルド 2液の特長

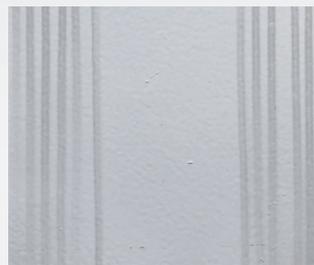


- ラジカル制御技術を採用
- 高い光沢と滑らかな仕上肌
- 優れた耐候性
- カビ、藻が付着しにくい
- 超低汚染性
- 艶の選択が可能(艶有り、7分つや、5分つや、3分つや)

超低汚染性

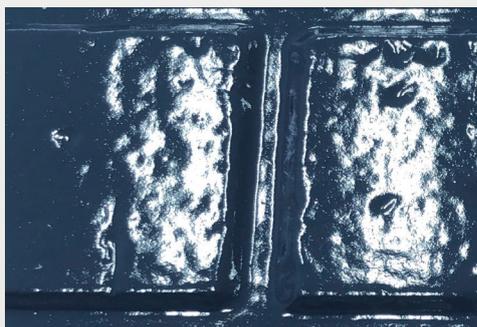


アレスダイナミックTOPマイルド 2液



従来シリコン樹脂塗料

高仕上がり性



アレスダイナミックTOPマイルド 2液



従来シリコン樹脂塗料

防カビ・防藻性

防カビ性



アレスダイナミックTOPマイルド 2液



従来アクリル樹脂塗料
防カビ・防藻剤を配合しない塗料

防藻性



アレスダイナミックTOPマイルド 2液



従来アクリル樹脂塗料
防カビ・防藻剤を配合しない塗料

幅広い素材(旧塗膜)適性

素材	下塗
コンクリート モルタル	アレスダイナミック防水フィラー/アレスダイナミックフィラー アレスダイナミックシーラーマイルド/アレスダイナミックシーラーアクア
窯業系 サイディング	アレスダイナミックシーラーマイルド※/アレスダイナミックシーラーアクア マルチタイルコンクリートプライマー-EPO/アレスダイナミックプラサフ ※難付着サイディングへの適性あり
金属 サイディング	アレスダイナミックプライマー
鉄	アレスダイナミックプライマー/1液エスコマイルド/ザウルスEXII
亜鉛メッキ アルミニウム	アレスダイナミックプライマー
木部	アレスダイナミックプライマー/カンペ1液木部用下塗HG
FRP	アレスダイナミックプライマー
硬質塩ビ	下塗不要(清掃・脱脂・目荒)

劣化の原因物質「ラジカル」に着目

「ラジカル」とは、塗料の主成分のひとつ「酸化チタン」に紫外線が当ることにより発生する物質で、塗膜を破壊し劣化を促進させます。関西ペイントテクノロジーを駆使し、塗膜劣化の原因物質である「ラジカル」の発生を抑える技術を開発しました。

動画でチェック

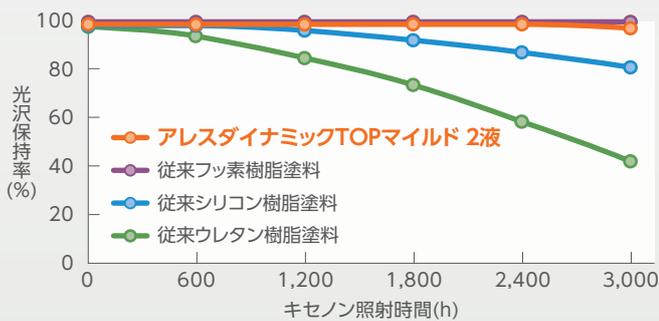


4つの技術で紫外線から外壁を護る

「ラジカル」の発生と活動を抑えることで、塗料の耐久性を飛躍的に向上させます。

高性能シリコンレジン	UVトランプ	ラジカルバリヤコート	HALSラジカルキャッチャー
超強力な結合エネルギーを持つ国産「高性能シリコンレジン」で紫外線劣化を阻止	「高性能シリコンレジン」をすり抜けた紫外線を「UVトランプ」で無害化	酸化チタンへの紫外線到達を阻止しラジカル発生を抑制	極微量すり抜けた紫外線によって発生したラジカルは「HALSラジカルキャッチャー」で捕獲し無害化

促進耐候性試験結果



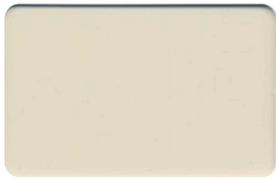
塗料の種類



耐久性の良い塗料を選ぶことで長期間の保護が可能になり
長い目で見るとトータルコスト低減につながります

塗り替えサイクルコスト

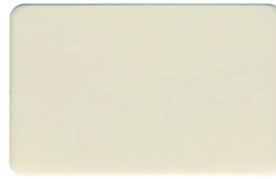




KP-111



KP-110



KP-112



KP-223



KP-310



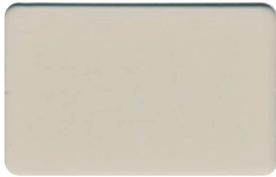
KP-121



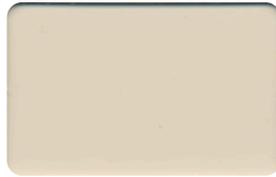
KP-133



KP-221



KP-120



KP-127



KP-131



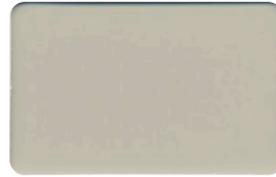
KP-80



KP-337



KP-336



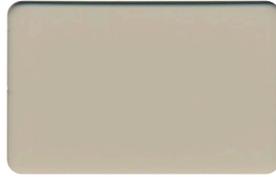
KP-141



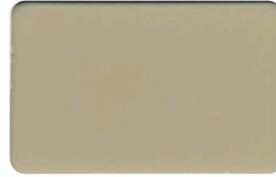
KP-247



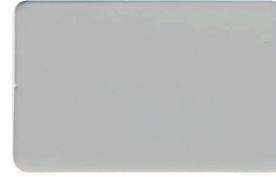
KP-330



KP-147



KP-350



KP-75



KP-347



KP-150



KP-352



KP-70



KP-356



KP-357



KP-368 ◎



KP-50



KP-367



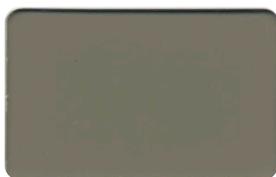
KP-167



KP-376



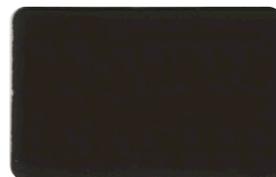
KP-379 ◎



KP-170



KP-385 ◎



KP-185 ◎

※この色見本は、紙に塗装していますので
実際の仕上りと多少異なります。
※提案色以外でも日本塗料工業会色見本帳
などでの調色も可能です。
◎印は、材料費が割高になります。
※見本帳の有効期限は2026年5月です。

アレスダイナミックTOPマイルド 2液



14kgセット

ベースと硬化剤は必ず6:1の割合で混合して使用してください。ベースのみでは十分な性能を発揮できないばかりか、不具合の原因となる事もあります。

3.5kgセット(ベース:3kg、硬化剤:0.5kg)もごございます。

ベース:12kg 硬化剤:2kg

アレスダイナミックTOPマイルド 2液 塗装仕様例

■外壁の塗り替え 【適用下地】コンクリート・モルタル・窯業系サイディングボード・ALC・各種旧塗膜

工 程	塗料名・処置	荷 姿	塗装方法	標準所要量(kg/m ² /回)	希釈率(重量%)	塗り重ね乾燥時間(23℃)
素地調整	劣化した旧塗膜をディスクサンダー・スクレーパー・皮スキ・ワイヤーブラシを用いて除去する。エフロ・レイタンス・ゴミ・汚れなどは、ワイヤーブラシ・サンドペーパー・ウエスを使用して除去する。モルタルの場合、浮き・クラックなどは適切な処置を行う。窯業系サイディングボードの場合、欠損、シーリング材の劣化部などは適切な処置を行う。					
下 塗	アレスダイナミックシーラーマイルド	ベース:12.5kg 硬化剤: 2.5kg	ハケ・ローラー	0.12~0.18	0(無希釈)	4時間以上7日以内
上塗1回目	アレスダイナミックTOPマイルド 2液 塗料用シンナーA	ベース:12kg 硬化剤: 2kg	ハケ・ローラー	0.12~0.14	0~10	4時間以上7日以内
上塗2回目	アレスダイナミックTOPマイルド 2液 塗料用シンナーA	ベース:12kg 硬化剤: 2kg	ハケ・ローラー	0.12~0.14	0~10	—

※標準所要量は被塗物の素材・形状・塗装方法などにより増減することがあります。

※高断熱型窯業系サイディングボードを使用した壁断熱工法などの「高断熱型外壁」を塗り替える際、旧塗膜が溶剤系アクリルトップである場合は蓄熱や水の影響、塗装後の環境などいくつかの条件が重なることで、塗膜のフクレが生じることがあります。

■金属部の塗り替え 【適用下地】鉄部・亜鉛メッキ・アルミ・ステンレス・ガルバリウム鋼板・金属サイディング・各種旧塗膜

工 程	塗料名・処置	荷 姿	塗装方法	標準所要量(kg/m ² /回)	希釈率(重量%)	塗り重ね乾燥時間(23℃)
素地調整	劣化している塗膜はケレン工具で除去する。さびは電動工具やサンドペーパーなどを用いて除去し、被塗面を清掃する。素地露出部は下塗を用いて補修塗りをを行う。					
下 塗	アレスダイナミックプライマー 塗料用シンナーA	ベース:14.4kg 硬化剤: 1.6kg	ハケ・ローラー	0.13~0.15	0~10	4時間以上7日以内
上塗1回目	アレスダイナミックTOPマイルド 2液 塗料用シンナーA	ベース:12kg 硬化剤: 2kg	ハケ・ローラー	0.12~0.14	0~10	4時間以上7日以内
上塗2回目	アレスダイナミックTOPマイルド 2液 塗料用シンナーA	ベース:12kg 硬化剤: 2kg	ハケ・ローラー	0.12~0.14	0~10	—

※標準所要量は被塗物の素材・形状・塗装方法などにより増減することがあります。

施工上の注意事項

- 塗装仕様に記載の塗り重ね乾燥時間は、屋外で気温23℃の条件を想定しています。低温時や屋内等で十分な換気ができない場合は、塗り重ね乾燥時間が長くなる場合がありますので、ご注意ください。
- 気温5℃以下、湿度85%以上の環境では塗装を避けてください。また、強風時や降雨、降雪、結露が予測される場合も塗装を避けてください。
- 黄・赤・青・緑系の冴えた色で仕上げの場合は、隠蔽性を上げるために中塗を共色で塗装してから仕上げをお奨めします。
- 希釈には必ず「塗料用シンナーA」をご使用ください。その他のシンナーを使用した場合、チヂミや再溶解等が発生することがあります。また、ラッカー系旧塗膜面を塗り替える場合、チヂミが発生することがありますので、事前に確認してください。
- 本品を溶剤適性の無い旧塗膜に塗装した場合、膨れや縮れなどの塗膜欠陥を起こす可能性がありますので、試験施工するなどして事前に確認してください。
- ベースと硬化剤を規定の割合で混合後「塗料用シンナーA」を加えて充分攪拌し、適切な粘度に調整してから塗装してください。薄めすぎは隠蔽力不足や光沢不足の原因となるだけでなく、流れやすくなるため、仕上り不良の原因ともなりますので、ご注意ください。流れた部分が白っぽくなる場合がありますが、この場合は、直ちに補修塗りを実施してください。
- 被塗面に油、ワックス、汚れ等が付着している場合は、必ずシンナーを含ませたウエスで拭き取ってから塗装してください。
- 艶調製品については、高温などの乾燥が早い環境下ではツヤムラが生じることがあります。

- 艶調整(5分つや・3分つや)仕上げの場合、塗装方法の変動、塗付量のバラツキ等により、ツヤムラが生じる場合がありますので、ご注意ください。
- 異なる色を塗り重ねる場合も、ニジミ防止のため、塗り重ね乾燥時間を1日以上確保してください。
- 塗装用具の洗浄にはラッカーシンナーをご使用ください。
- ベース、硬化剤は湿気の影響を受けやすいので、必ず密閉して冷暗所に保管して下さい。又、ベースと硬化剤を混合したものは、8時間以内(23℃)に使い切ってください。
- 汚れ、傷などにより補修塗りが必要な場合がありますので、使用塗料の控えは必ずとっておき、同一塗料、同一ロット、同一塗装方法で補修塗装をしてください。
- 濃彩色仕上げの際、雑巾・ウエス等で強くすると、色落ちや艶変化が起こる場合があります。
- シーリング面への塗装は極力避けてください。汚染や粘着、ワシの原因となります。やむをえず塗装する場合には、ノンブリードタイプのシーリング材を用いることとし「シープラ」又は「マルチタイルコンクリートプライマー-EPO」をバインダーとして挟むことで不具合を軽減することができます。
- スチールドアなどで、ゴムパッキンと接触する部分は、粘着することがありますので、塗装は避けてください。
- 蓄熱されやすい素材(軽量モルタル、ALC、窯業サイディングなど)等で、旧塗膜が弾性リシンや弾性スタッコ、複層弾性のアクリルトップ等の場合、環境条件によっては水や温度の影響で塗膜が膨れる場合があります。これらの場合には既存塗膜を除去する等の入念な下地処理を行ってください。

ご使用上の注意事項

下記の注意事項を守ってください。詳細な内容については安全データシート(SDS)をご参照ください。

- 取り扱い作業中・乾燥中ともに換気の良い場所で使用し、粉じん・ヒューム・ガス・ミスト・蒸気・スプレーを吸入しないこと。必要な保護具(帽子・保護メガネ・マスク・手袋等)を着用し、身体に付着しないようにすること。
- 吸入に関する危険有害性情報の表示がある場合、有機ガス用防毒マスク、又は、送気マスクを着用すること。又、取り扱い作業場所には局所排気装置を設けること。
- 皮膚接触に関する危険有害性情報の表示がある場合、頭巾・えり巻きタオル・長袖の作業着・前掛けを着用すること。
- 火気避けること。静電気放電に対する予防処置を講ずること。
- 火災を発生しない工具・防爆型の電気機器・換気装置・照明機器等を使用すること。
- 裸火又は高温の白熱体に噴霧しないこと。
- 本来の目的以外に使用しないこと。
- 指定材料以外のものとは混合(多液品の混合・希釈等)しないこと。
- 缶の取っ手を持って振ったり、取っ手をロープやフックで吊り下げたりしないこと。
- 取り扱いは、洗顔、手洗い、うがい、及び、鼻孔洗浄を十分行うこと。
- 使用済みの容器は、火気、溶接、加熱を避けること。
- 本品の付いた布類や本品のかす等は水に浸して処分すること。

- 目に入った場合：直ちに、多量の水で洗うとともに医師の診察を受けること。
- 皮膚に付着した場合：直ちに拭き取り、石けん水で洗い落とし、痛みや外傷等がある場合は、医師の診察を受けること。
- 吸入した場合：空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けること。
- 飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。
- 漏出時や飛散した場合は、砂、布類(ウエス)等で吸い取り、拭き取ること。
- 火災時には、炭酸ガス、泡、又は、粉末消火器を用いること。
- 指定容器を使用し、完全にふたをして湿気のない場所に保管すること。直射日光、雨ざらしを避け、貯蔵条件に基づき保管すること。子供の手の届かない場所に保管すること。又、関連法規に基づき適正に管理すること。
- 本品の付いた布類や本品のかす、及び、使用済み容器を廃棄するときは、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処分すること。(排水路、河川、下水、及び、土壌等の環境を汚染する場所へ廃棄しないこと。)
- 本製品は揮発性の化学物質を含んでいますので、塗装直後の引渡しの場合は、施工主様に対して安全性に十分に注意を払うように指導してください。
- 例えば、不特定多数の方が利用される施設などの場合は、立看板などでベンキ塗り立てである旨を表示し、化学物質過敏症ならびにアレルギー体質の方が接することのないようにしてください。

子
防
策



MADE IN JAPAN

関西ペイント販売株式会社

 関西ペイントホームページ
www.kansai.co.jp

北海道 TEL (0133) 64-2424 FAX (0133) 64-5757
東北 TEL (022) 287-2721 FAX (022) 288-7073
北関東信越 TEL (028) 637-8200 FAX (028) 637-8223

東京 TEL (03) 5711-8905 FAX (03) 5711-8935
中部 TEL (052) 262-0921 FAX (052) 262-0981
大阪 TEL (06) 6203-5701 FAX (06) 6203-5603

中国 TEL (082) 262-7101 FAX (082) 264-3285
四国 TEL (0877) 24-5484 FAX (0877) 24-4950
九州 TEL (092) 411-9901 FAX (092) 441-3339

※本カタログの内容については、予告なく変更することがありますのであらかじめご諒承ください。

(23年05月04刷PNA) カタログNo.934
頒布価格 1,000円(税込)